

令和7年  
夏号

7月1日発行

# 三重県神社庁 「季節たより」



## 夏詣

なつもうで

早々に梅雨明けが発表され今年も猛暑の夏がやってきました。熱中症予防を忘れずに、どうぞご自愛専一にてお過ごしください。

さて、神社の夏といえは夏祭りのワードが頭に浮かぶのではないかと思いますが、最近では「初詣」ならぬ「夏詣」というものがあるようです。東京都台東区の浅草神社が、夏も神社に足を運び文化に触れてほしいと、平成二十六年から始めたそうです。

一年の最後の日・大晦日には大祓を行います。そこで一年間の罪穢れを祓い清めます。そして新年の改まりと共に、一年の平穏と無事を願って初詣に行くのです。

大祓は年に二度行われます。もう一つの大祓が、夏越の大祓です。一年の折り返しを迎え、知らず知らず身に降りかかった半年間の罪穢れを祓い、清々しい七月からの半年を迎えようとするものです。

夏詣は、一年の前半を無事に過ごせたことへの感謝と、これからの半年の無事と平穏の願いを込めて神社にお参りするのが夏詣だそうです。この時期は暑さのために外出を控えることも多くなりがちですが、日中に涼を求めて木立の中を、あるいは夕涼みがてら境内をそぞろ歩いて、残りの半年を無事に過ごせるようにと神様に手を合わせる。夏の一日をそんな風に過ごしてみるのも風情があって良いかもしれませんね。皆様の後半の半年が平穏無事でありますように、お祈り申し上げます。

## 表書き

神前にお金やお酒などをお供えする際に記す表書きは、「御神前」「御供」「玉串料」「御柙料」「初穂料」などが一般的です。御神前・御供という表書きは説明するまでもありませんが、玉串料・御柙料とは玉串や柙の代わりに、また初穂料とはその年に初めて収穫されたお米の代わりに、それぞれお供えする料であることを意味しています。このほか、「上」や「奉献」「奉納」と書く場合もあります。上はよく神様や目上の方に対する御礼の際の表書きに用いられる語です。



## 榊について

榊とは、一般的にツバキ科の常緑樹のことを指し、古くは、常緑樹の総称としてその名前は使われていました。常緑樹は、冬でも青々とした葉が生い茂っているため、生命力の象徴、生気が宿るものとして考えられ、神事においても玉串として神前にお供えされたり、お祓いに使用されたりしています。記紀神話にも神事に榊を用いたことが記されています。

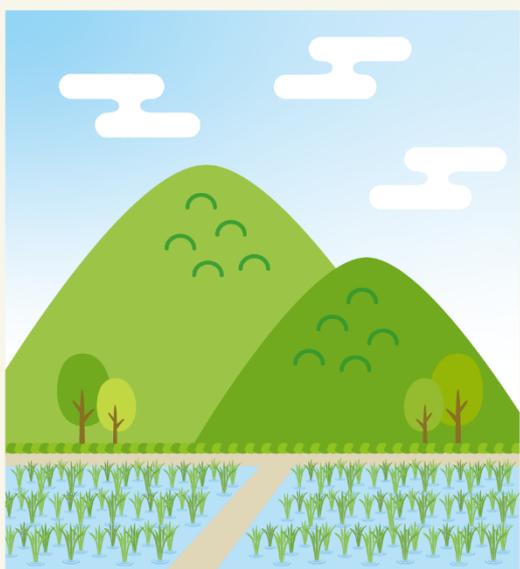


## 神社の豆知識



## 山の神について

山の神とは、文字通り山と関わり深い神のことですが、『古事記』にはオオヤマツミノカミに代表されるさまざまな山の神が記されています。民間信仰において「山の神」とは、一般的に、春になると山から里に下り、五穀豊穡を助ける田の神となり、秋に収穫が済むと再び山に戻る農耕の神として考えられています。また山には先祖の御霊が鎮まると考えられ、祖霊に対する信仰ともかかわっています。



## 神社からのお願い

参拝者の中には高齢のかたや基礎疾患をお持ちのかたもいらっしゃると思いますので、引き続き職員がマスクを着用している神社もあります。ご理解下さいますようお願い致します。また、清々しい気持ちで神社にお参りして戴くために、皆様におかれましてはご協力いただきませうようお願い申し上げます。



神社や神道について詳しくはこちらのQRコードからご覧ください。



三重県神社庁  
ホームページ



三重県神社庁  
Instagram



神社本庁  
ホームページ



三重県神社庁  
YouTube

三重県内各神社では、家内安全・商売繁盛・初宮参り・七五三詣・学業成就・合格祈願・交通安全・縁結祈願・子授祈願・安産祈願・厄祓い・病氣平癒・地鎮祭・竣工祭・自動車清祓など様々なご祈願を受付けています。

いつもより神さまに近い場所で、願意を届けてみてはいかがでしょうか。  
ご祈願についてのお問合せは、三重県内の各神社までお願い致します。